



## 2025年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年11月1日

上場会社名 株式会社バイタルケーエスケー・ホールディングス 上場取引所 東  
コード番号 3151 URL <https://www.vitalksk.co.jp/>  
代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 村井 泰介  
問合せ先責任者（役職名） 取締役経理財務担当（氏名） 喜多 勇夫（TEL）06-6941-1207  
半期報告書提出予定日 2024年11月8日 配当支払開始予定日 2024年12月3日  
決算補足説明資料作成の有無 : 有  
決算説明会開催の有無 : 有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

### 1. 2025年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年4月1日～2024年9月30日）

#### （1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	297,079	1.0	2,876	0.3	3,637	4.6	2,420	3.1
2024年3月期中間期	294,213	—	2,868	—	3,478	—	2,347	—

（注）包括利益 2025年3月期中間期 6,361百万円（28.5%） 2024年3月期中間期 4,951百万円（—%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	48.75	—
2024年3月期中間期	45.78	—

#### （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期中間期	317,568	109,626	34.1
2024年3月期	317,258	105,940	33.0

（参考）自己資本 2025年3月期中間期 108,285百万円 2024年3月期 104,664百万円

（注）2024年3月期第1四半期連結会計期間より表示方法の変更を行ったため、2024年3月期中間期につきましては対前年中間期増減率は記載しておりません。

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	19.00	—	23.00	42.00
2025年3月期	—	21.00	—	—	—
2025年3月期（予想）	—	—	—	22.00	43.00

（注）1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	590,000	0.4	5,500	△1.0	6,400	△2.4	6,000	2.7	122.51

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料10ページ(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2025年3月期中間期	51,902,976株	2024年3月期	51,902,976株
-------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2025年3月期中間期	2,928,832株	2024年3月期	1,706,337株
-------------	------------	----------	------------

③ 期中平均株式数(中間期)

2025年3月期中間期	49,661,749株	2024年3月期中間期	51,269,318株
-------------	-------------	-------------	-------------

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

・当社は、2024年11月11日に機関投資家及びアナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。当日使用する決算説明資料については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当中間期決算に関する定性的情報	2
経営成績に関する説明	2
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(会計方針の変更)	10
(セグメント情報等)	10

## 1. 当中間期決算に関する定性的情報

### 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、円安の進行や物価上昇の影響による景気の下振れ懸念があったものの、雇用や所得環境の改善が進んだことなどから、緩やかに回復し、社会経済活動の動きが活発になった一方で、国際情勢不安、供給面での制約及び金融資本市場の変動等、依然として不確実性が高く、景気の先行きは予断を許さない状況にあります。

当社グループの主たる事業である医薬品卸売業界におきましては、2024年4月の薬価改定による医療費削減効果はおよそ1,200億円規模となり、今後も社会保障制度や薬価制度など人々の生命、健康にかかわる政策・制度の抜本改革へ向けた議論が活発化し薬剤費の抑制政策は継続されることが予想されます。

このような中、第5次中期経営計画最終年度である当期におきましては、各種実践課題の総仕上げと、利益計画の達成を目指すとともに、「長期ビジョン2035：垣根を越えて 薬の先へ “つなぐ”」ことで医療の未来を革新する」の実現に向けてグループ一丸となって取り組んでまいります。

ここで、当中間連結会計期間内の主なトピックスを紹介いたしますと以下の3点があります。

まず1点目は、地域に深く根付いた当社グループならではの営業戦略の成果についてです。主要事業子会社の一つ、㈱バイタルネット(本社：仙台市)では、主力エリア内の岩手県盛岡市、山形県山形市などと「健康増進に関する連携協定」を締結し、当該自治体や医師会等と共催で市民向け公開講座を開催し、子宮頸がんワクチン受診の重要性を訴える活動を展開し、売上拡大に大きく寄与しました。

また、もう一つの主要事業子会社の㈱ケーエスケー(本社：大阪市)では、女性の社会進出に伴い表面化してきた、女性特有の疾患や健康問題に対応するため、女性を中心とした営業組織「ウィメンズヘルスケアソリューション部(WHS部)」を新設し、2024年7月より活動を開始いたしました。担当する産科・婦人科に対し、専門性を活かした営業活動を展開することで、専門組織ゆえのタッチポイントの強さを実感するだけでなく、子宮頸がんワクチンをはじめ、売上拡大に寄与するなど、早々にその効果が発現し始めております。

次に2点目は、2024年8月、神奈川県伊勢原市にある伊勢原物流センター(仮称)が、当社グループの新規注力事業である製薬メーカー向け3PL事業の5番目の拠点として当局の許認可が下り、2026年度稼働を目指して建設ステージに入りました。

最後の3点目は、同じく8月に、動物用医薬品卸売事業の連結子会社の㈱アグロジャパンが神奈川県横浜市に本社がある同業のアローメディカル㈱の株式を90%取得して連結子会社化しました。これで、アローメディカル㈱が持つ首都圏エリア内の約600に及ぶ動物病院の顧客を㈱アグロジャパンが一気に獲得したことになります。ただし、当期の業績に与える影響は軽微であります。

なお、2024年10月8日付の「公正取引委員会による連結子会社(孫会社)の株式会社アグロジャパンへの立ち入り検査について」においてお知らせしました通り、㈱アグロジャパンは、山形県等が発注する動物用医薬品の入札に関し、独占禁止法違反の疑いがあるとして、公正取引委員会による立ち入り検査を受けました。当社といたしましては、㈱アグロジャパンとともに、この度の事態を厳粛かつ真摯に受け止め、公正取引委員会の検査に全面的に協力してまいります。

さて、当中間連結会計期間の業績につきましては、売上高297,079百万円(前中間連結会計期間比101.0%)、営業利益2,876百万円(前中間連結会計期間比100.3%)、経常利益は3,637百万円(前中間連結会計期間比104.6%)、親会社株主に帰属する中間純利益2,420百万円(前中間連結会計期間比103.1%)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

① 医薬品卸売事業

医薬品卸売事業の当中間連結会計期間におきましては、薬価改定の影響のほか、前年同期に計上した新型コロナウイルス感染症の治療薬や検査キット等の販売やコロナワクチン配送業務受託による売上が減少するなどマイナスの影響はあったものの、抗がん剤を中心とした新薬創出加算品、先発品および子宮頸がんワクチンや、10月から接種開始になる新たなコロナワクチン等の販売が減収分を上回りわずかに増収となりました。利益面においては、この増収効果等により前年同期比で伸長いたしました。

以上の結果、売上高は279,541百万円(前中間連結会計期間比100.8%)、セグメント利益(営業利益)は、2,724百万円(前中間連結会計期間比103.2%)となりました。

② 薬局事業

薬局事業におきましては、受付処方箋枚数は減少したものの、調剤技術料収入および薬学管理料収入の増大に努めたことなどにより売上高は伸長いたしました。一方、利益面においては、薬価改定の影響のほか、処方日数の長期化などにより減益となりました。以上の結果、売上高は9,725百万円(前中間連結会計期間比103.6%)、セグメント利益(営業利益)は96百万円(前中間連結会計期間比83.7%)となりました。

③ 動物用医薬品卸売事業

動物用医薬品卸売事業におきましては、一部商品がメーカー直販になるため商品切り替えのマイナス等の影響がありました。アローメディカル㈱の連結子会社化もあり売上は5,647百万円(前中間連結会計期間比101.0%)となりました。セグメント利益(営業利益)は仕入価格の上昇等が影響し、144百万円(前中間連結会計期間比78.6%)となりました。

④ その他事業

その他事業におきましては、各事業において売上が回復したこと等により、セグメント損失額も縮小いたしました。この結果、売上高は2,165百万円(前中間連結会計期間比106.4%)、セグメント損失(営業損失)は88百万円(前中間連結会計期間のセグメント損失は108百万円)となりました。

## 2. 中間連結財務諸表及び主な注記

## (1) 中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	34,712	19,659
受取手形及び売掛金	117,993	123,552
棚卸資産	31,421	35,667
未収入金	16,337	16,098
その他	2,890	3,451
貸倒引当金	△51	△53
流動資産合計	203,303	198,376
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	19,174	18,640
土地	25,244	25,275
その他(純額)	5,285	5,533
有形固定資産合計	49,704	49,449
無形固定資産		
のれん	682	680
その他	3,231	3,615
無形固定資産合計	3,913	4,295
投資その他の資産		
投資有価証券	46,956	51,891
その他	14,033	14,184
貸倒引当金	△653	△629
投資その他の資産合計	60,336	65,446
固定資産合計	113,954	119,192
資産合計	317,258	317,568

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	179,174	177,308
短期借入金	890	890
1年内返済予定の長期借入金	970	970
未払法人税等	1,561	1,393
賞与引当金	1,687	1,553
その他	9,122	7,267
流動負債合計	193,407	189,383
固定負債		
長期借入金	5,820	5,335
その他の引当金	366	299
退職給付に係る負債	60	15
その他	11,663	12,908
固定負債合計	17,910	18,558
負債合計	211,317	207,942
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	5,000	5,000
資本剰余金	5,272	5,272
利益剰余金	71,339	72,603
自己株式	△1,653	△3,193
株主資本合計	79,958	79,682
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	22,749	26,857
退職給付に係る調整累計額	1,956	1,745
その他の包括利益累計額合計	24,705	28,602
非支配株主持分	1,276	1,341
純資産合計	105,940	109,626
負債純資産合計	317,258	317,568

## (2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

## 中間連結損益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	294,213	297,079
売上原価	270,626	273,264
売上総利益	23,587	23,814
販売費及び一般管理費	20,719	20,938
営業利益	2,868	2,876
営業外収益		
受取利息	33	23
受取配当金	326	361
持分法による投資利益	28	42
受取賃貸料	130	130
有価証券償還益	—	239
その他	199	69
営業外収益合計	717	867
営業外費用		
支払利息	50	44
賃貸費用	39	25
その他	18	35
営業外費用合計	108	105
経常利益	3,478	3,637
特別利益		
固定資産売却益	33	1
投資有価証券売却益	169	115
その他	24	4
特別利益合計	227	120
特別損失		
固定資産売却損	—	28
減損損失	49	39
投資有価証券評価損	42	—
解体費用	47	0
その他	29	14
特別損失合計	169	83
税金等調整前中間純利益	3,536	3,675
法人税等	1,139	1,211
中間純利益	2,397	2,464
非支配株主に帰属する中間純利益	50	43
親会社株主に帰属する中間純利益	2,347	2,420



## 中間連結包括利益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純利益	2,397	2,464
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,322	3,545
退職給付に係る調整額	△182	△210
持分法適用会社に対する持分相当額	413	562
その他の包括利益合計	2,553	3,897
中間包括利益	4,951	6,361
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	4,900	6,320
非支配株主に係る中間包括利益	50	41

## (3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	3,536	3,675
減価償却費	1,505	1,865
減損損失	49	39
のれん償却額	69	64
貸倒引当金の増減額(△は減少)	39	△22
賞与引当金の増減額(△は減少)	△3	△139
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△226	△291
受取利息及び受取配当金	△359	△376
受取賃貸料	△130	△130
支払利息	50	44
持分法による投資損益(△は益)	△28	△42
投資有価証券売却及び評価損益(△は益)	△126	△85
有形固定資産除売却損益(△は益)	△31	32
売上債権の増減額(△は増加)	△9,161	△5,387
棚卸資産の増減額(△は増加)	△183	△4,209
未収入金の増減額(△は増加)	520	248
差入保証金の増減額(△は増加)	28	△11
仕入債務の増減額(△は減少)	22,158	△2,063
その他	△298	△1,150
小計	17,407	△7,942
利息及び配当金の受取額	342	376
利息の支払額	△50	△44
法人税等の支払額	△1,906	△1,381
法人税等の還付額	897	15
その他	76	△64
営業活動によるキャッシュ・フロー	16,767	△9,039

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額(△は増加)	400	12
有形固定資産の取得による支出	△549	△1,788
有形固定資産の売却による収入	116	2
無形固定資産の取得による支出	△1,583	△1,155
投資有価証券の取得による支出	△5	△531
投資有価証券の売却による収入	277	728
投資有価証券の償還による収入	200	804
貸付けによる支出	△0	△19
貸付金の回収による収入	11	115
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△147	△103
その他	△268	120
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,549	△1,815
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△100	—
長期借入金の返済による支出	△485	△485
リース債務の返済による支出	△481	△896
自己株式の処分による収入	0	—
自己株式の取得による支出	△956	△1,644
配当金の支払額	△1,401	△1,155
その他	△4	△4
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,429	△4,185
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	11,789	△15,040
現金及び現金同等物の期首残高	15,147	31,125
現金及び現金同等物の中間期末残高	26,936	16,084

#### (4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当中間連結会計期間(自2024年4月1日至2024年9月30日)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当中間連結会計期間(自2024年4月1日至2024年9月30日)

該当事項はありません。

(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

##### 税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積もり実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(会計方針の変更)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を当中間連結会計期間の期首から適用しております。法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過措置及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過措置に従っております。なお、当該会計方針の変更による中間連結財務諸表への影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を当中間連結会計期間の期首から適用しております。当該会計方針の変更は、遡及適用され、前中間連結会計期間及び前連結会計年度については遡及適用後の中間連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。なお、当該会計方針の変更による前中間連結財務諸表及び前連結会計年度の連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等)

(セグメント情報)

##### 1 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、事業会社を基礎とした業種別のセグメントから構成されており、その主たるセグメントである「医薬品卸売事業」、「薬局事業」及び「動物用医薬品卸売事業」を報告セグメントとしております。

「医薬品卸売事業」は、病院、開業医、薬局等の医療機関に、医薬品・診断薬・医療機器・材料等の販売等をしております。「薬局事業」は、一般消費者に医薬品・医療機器・器具及び衛生材料等の販売をしております。「動物用医薬品卸売事業」は、農場、牧場、動物病院、診療所等に、動物用医薬品・飼料等の販売等をしております。

## 2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表作成のために採用している会計処理の方法と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

## 3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前中間連結会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	連結財務諸 表計上額 (注3)
	医薬品 卸売事業	薬局事業	動物用医薬 品卸売事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	277,201	9,386	5,589	292,178	2,035	294,213	—	294,213
セグメント間の内部 売上高又は振替高	5,276	6	0	5,283	1,300	6,583	△6,583	—
計	282,478	9,392	5,589	297,461	3,335	300,797	△6,583	294,213
セグメント利益又は損 失(△)	2,640	114	183	2,938	△108	2,829	39	2,868

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、農薬等の卸売業、介護サービス業、運送業、医療機関に対するコンサルティング業、スポーツ施設運営事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額39百万円はセグメント間取引消去等によるものであります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	連結財務諸 表計上額 (注3)
	医薬品 卸売事業	薬局事業	動物用医薬 品卸売事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	279,541	9,725	5,647	294,913	2,165	297,079	—	297,079
セグメント間の内部 売上高又は振替高	5,454	6	0	5,460	1,341	6,802	△6,802	—
計	284,995	9,731	5,647	300,374	3,507	303,881	△6,802	297,079
セグメント利益又は損 失(△)	2,724	96	144	2,964	△88	2,876	△0	2,876

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、農薬等の卸売業、介護サービス業、運送業、医療機関に対するコンサルティング業、スポーツ施設運営事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△0百万円はセグメント間取引消去等によるものであります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。